

け や き



大仙市教育の強みは… 「大仙教育メソッド」構築へ

大仙市教育委員会 教育長 吉川 正 一

大仙市が誕生して11年。この間、「総合的な学力」の育成を柱に、本市の学校教育を牽引してこられた三浦憲一前教育長から「つもり違い（深いつもりで浅いのが知恵、浅いつもりで深いのが欲望）」の私にパトタッチされ、9か月が過ぎようとしています。見識、指導力とも未熟な自分ですが、これまで創られてきた豊かな教育環境を後退させることなく、また、築かれた教育的財産をさらに生かしながら、「地域活性化に寄与できる人材の育成」とそのための教育環境づくりに努力してまいりたいと思っています。

さて、2年ほど前、当時初等中等教育局長であった前川喜平氏（現文部科学審議官）が、次のような話をされていました。「『何を教えるか』も重要だが、『どのように教えるか』という教育方法論が非常に重要になる。教育方法のイメージとしては、プロジェクト学習、反転学習、総合的学習、各教科をベースにした総合学習、実生活や実社会の問題を取り上げた学習などである。」と。来年度示される新学習指導要領はこのことがベースになっているようです。キーワードは「アクティブ・ラーニング」。大仙市はもちろんですが、秋田県の学習スタイル（探究型の学習等）はこの「アクティブ・ラーニング」と軌を一にしていると、田村学視学官兼教科調査官が話されていました。今年度、本市の西北北中学校（美術）、大曲中学校（国語）、中仙中学校（理科）の3校が国立教育政策研究所指定の教育課程研究指定校として研究を進めています。授業を参観させていただきましたが、まだ課題はあるものの、どの授業もこの「アクティブ・ラーニング」を意識した展開だったように思えます。

しかし、大仙市の学校教育を支えているものは、もっと日々の学習にあると感じています。訪問したY小学校1年生の道徳の時間での様子。先生の質問に対しての児童の発表…「私は〇〇〇と思います。なぜかという△△△と思ったからです。」…理由まで付けての発言でした。まだ1年生です。しかも、他の子どもたちは、きちんとその発言した子の方を向いてうなずきながら聞いているのです。集団で学習するための「しつけ」がきちんと育てられていました。大仙市の学校では、このような学級をつくらせている先生方が多くいらっしゃいます。県外から視察に訪れた多くの先生方が、学習展開もさることながら、そのような授業風景に感動されておりました。

参観後の職員との懇談で、私は中国の明代末期に洪自誠（こう じせい）が著した「菜根譚」にある話をしました。「厳しさがあるからこそ称賛が心に残り、次への意欲を引き出す」と。大人でも、いつもは厳しく指導する上司に誉められると次への意欲が出るような気がします。

また、スポーツ少年団の指導者等研修会で、元シドニーオリンピック水泳選手の萩原智子さんの講話をお聞きする機会を得ました。萩原さんは、「真のライバル」とは、目標達成のための「覚悟」、ライバルへの「優しさ」、へこたれない「強さ」をもっている人だと話されていました。そして、「優勝」は見方を変えれば、優しさをもって勝つことであり、この優しさには「強さ」があるから本物の優しさとなる。そして、その最初の形が「笑顔」だと話されました。

21世紀型能力を育成する要素は、基礎力（言語スキル・数量スキル・情報スキル）と、思考力（問題解決・発見力・創造力、論理的・批判的思考力、メタ認知等）、そして、実践力（自律的活動力・人間関係形成力・社会参画力等）だそうです。しかし、まず子どもたちをしっかりとしつけ、優しさをもって深く学ばせていく姿勢が大切だと思います。高村光太郎の「少年に与ふ」という詩の中に、「持って生まれたものを深く探って、強く引き出す人になるんだ」という文があります。教師の仕事を示しているように思えます。また、井上ひさしの言葉にも、我々が目指す授業観が見えます。「むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをおもしろく」です。

そして、「学校力」を支えるもの…一人のスーパー先生がいても、なかなかこの「学校力」の向上は難しいものです。校長のリーダーシップの下、教職員全体が一つのベクトルにどう向かっているかにかかっていると思います。そのためにも、明るい職場が基盤です。まずは「校長先生の笑顔と前向きさ」が鍵になるかと思います。皆さんの校長先生の笑顔、明るさはいかががでしょうか。

平成28年度からは、各学校の教育活動のすばらしさを「大仙教育メソッド」という形でまとめ、情報発信してまいります。その動きは既に始まっていますが、次の三つの力について、各中学校区ごとに整理し、構築していったほしいと思っています。

一つ目は「Ⅰ：基礎となる力」です。この力のキーワードは、「思いやり」「たくましさ」「市民性」といった、心と体の部分です。これからはバーチャルの世界が広がるといわれていますが、やはり「体験」が子どもたちを強く、大きくすると思います。そのような体験を大切にしたい各中学校区の特色を十分に発揮していただきたいと考えております。

二つ目は「Ⅱ：学ぶ力」です。「習熟」「探究」「グローバル」をキーワードとした考え方や活動を各校の計画に盛り込んでいただきたいと考えております。20年後、仕事の6割は現在ない仕事になるとの話もあります。全教科等で「アクティブ・ラーニング」による実践を進めながら、多面的で視野の広い課題解決能力の育成に努めていただきたいと思っています。

最後の三つ目は「Ⅲ：活かす力」です。Ⅰの基礎となる力を基盤に、Ⅱの学ぶ力を活かす力です。キーワードは「キャリア教育」、「地域活性化」です。子どもたちが将来、たくましく、創造的に生きることができるよう「キャリアアップ」するための力を伸ばし、それを地域活性化に生かしてもらいたいという願いを込めています。

この三つの力、キーワードを念頭に、これまで行われてきた様々な教育活動を整理しながら、「大仙教育メソッド」として広く発信したいものです。

それでは、新米教育長ですが、今後ともよろしくお願いたします。



大曲高校英語科生徒との交流
（大曲小・外国語活動）

国際教養大学との連携による博報財団・児童教育実践研究（小学校・外国語活動）を通じた取組について

小学校教員の英語指導力向上を目指して

大仙市立東大曲小学校 教頭 石山 廣子

1 はじめに

本校は、今年度国際教養大学と共同で「小学校英語教科化に向けたティーム・ティーチングを生かした教員研修モデルの開発」という研究に取り組んできた。これは、小学校教員の英語力の養成を図り、担任教員の英語の指導力向上のモデルを開発しようとするものである。

2 今年度の主な取組

- 英語教育を専門とする大学教員と小学校教員（6年担任）が毎週1時間ティーム・ティーチングの授業を行う。
- All Englishの授業を毎回実践し、英語による指示（ティーチャー・トーク）の習得を目指す。
- 国際教養大学と秋田県教育委員会が共同開発した「小学校外国語活動教員研修」の中で使用している英語指導表現表も活用し、授業内に使用する英語量の増加に努める。
 - ・使用教材：Explore Our World（ナショナル・ジオグラフィック、センダーズ）
- 担任教員の英語に対する不安軽減に向けた対策として、毎週、授業の打合せの時間を設定する。（約1時間）→効果的なティーム・ティーチング
- 担当教員の英語使用が児童に与える効果の調査として、TOEFL primary（小学生用英語コミュニケーション能力テスト）を年3回受検する。
- 担任教員の英語力向上のチェックのためTOEICを年2回受検する。
- 担任教員の英語に対する不安度を毎月計測する。
- 身に付けた英語力活用のため、2月に国際教養大学を訪問し、留学生とのコミュニケーション活動を実施する。



3 成果と課題

- 担任教員の英語使用量が格段に増え、現在はほぼすべての指示を英語で行えるようになってきている。
- 担任教員の英語に対する不安軽減が図られ、単元全体の指導案も作成できるようになってきた。
- 児童の英語能力と意欲の伸長が認められ、10月のTOEFL primaryの結果は、Listening CEFR A1レベル（英検5級～3級レベル）が9割、Reading, Listening 共にCEFR A2レベル（英検準2級レベル）1割であった。
- 12月実施の県学習状況調査では、外国語活動の学習は全員が「好き」と答えている。
 - 「あきた型授業」と同様、本時のめあてを達成するための授業スタイルの研修を積み重ねていく必要がある。
 - 持続可能な研修へ向けた体制を構築していく必要がある。



外部専門機関と連携した英語指導力向上事業（文部科学省）「拠点校・協力校英語授業改善プログラム」事業（県教育委員会）

スピーキング活動の充実について

大仙市立大曲中学校 教諭 牛木 豊

本校は標記指定を受け、今年度4年目の研究を行った。

1 研究の概要

本校では、国際教養大学の町田准教授や協力校の教員から助言をいただき、「メモに基づいたスピーキング指導」について、継続して研究を行ってきた。「話すこと」を中心に、4技能を統合して活用する力の向上に取り組んでいる。

2 成果

伝える上で必要となるキーワードの選択や既習表現の活用について、各学年の生徒の実態に応じて段階的な指導をすることができた。英語で授業を進める上で重要となる教員の英語力も、着実に高まってきている。



3 課題

スピーチの一貫性を高めるために、つなぎ言葉を活用するなどして、「内容のつながり」「文と文のつながり」に留意した指導が必要である。また、「相手が話した内容に関わりのある質問」をする力の育成は、コミュニケーションを継続させる上で必須の力であり、今後も引き続き取り組んでいく必要がある。

外部専門機関と連携した英語指導力向上事業（文部科学省）「拠点校・協力校英語授業改善プログラム」事業（県教育委員会）

協力校との連携を生かした単元づくり

大仙市立大曲小学校 教諭 厨川 浩子

今年度本校は、標記指定を受け、大曲高等学校と大曲中学校両校の協力のもとに研修を進めてきた。

1 協力校との連携について

今年度で7年目となる大曲高等学校外国語活動サポートは、英語科1、2年生が本校5、6年生の授業に入る形で行い、今年度は8回実施している。

大曲中学校とは、ビデオを通じた交流授業や英語科教諭からの校内研修会における助言などが挙げられる。

2 交流を生かした単元づくり

コミュニケーションの必要感がアップするよう、交流を組み入れた単元構成を行い、指導の充実を図った。以下はその一例である。

<5年> Lesson7 What's this?（5時間）

第4時（高校生と交流）、第5時（6年生と交流）

<6年> Lesson5 Let's go to Italy.（5時間）

第4時（他学級と交流）、第5時（5年生と交流）

3 成果と課題

- 交流を組み込んだことにより、コミュニケーションの質が向上した。
- より意義のある連携のため、学校間の一層の共通理解が必要である。



教育課程研究指定校事業 (中学校国語) (国立教育政策研究所)

主体的な学びのために

大仙市立大曲中学校 教諭 市川 真喜子

平成27・28年度標記指定を受け、「生徒が主体的に言語活動に取り組みながら、学び合いを通して、思考・判断・表現する単元構成の工夫」を研究主題として実践研究を進めている。

1 研究の概要

「C読むこと」において、生徒が主体的に取り組む課題解決的な言語活動を位置付けた単元構成の工夫により、生徒の思考力・判断力・表現力の向上を目指している。具体的な研究内容は、単元名の工夫、単元構想表の活用、学び合いの充実、学校図書館との連携である。



2 成果と課題

- 単元名に、付けたい力と課題解決的な言語活動を明記して生徒と共有したことで、見通しをもって学習に取り組む姿が見られた。
- 単元構想表を活用したことで、付けたい力に即した学び合いであったかを学習シートや授業の振り返りなどから評価できた。
- 単元における主体的な学習を促すために、継続して効果的な学び合いや適切な評価の在り方を吟味していく必要がある。
- 生きて働く国語の力が身に付くように、日常生活や社会生活を意識した言語活動の設定が必要である。
これらを踏まえ、「どのように学ぶか」を自ら考えることができる生徒を目指して研究を進めたい。

教育課程研究指定校事業 (中学校美術) (国立教育政策研究所)

表現と鑑賞の相互の関連

大仙市立西仙北中学校 教諭 田中 真二郎

1 はじめに

今年度から2か年、標記指定を受け、「自ら表現したいことを見付け、豊かに表現する生徒の育成～「A表現」と「B鑑賞」相互の関連を図った授業改善～」を研究主題として全校体制で研究を進めてきた。

2 研究の成果と課題

- 美術館と連携し、表現との関連を図った鑑賞活動を行ったことにより、生徒自ら表現したいことを見付けるきっかけとなり、表現の幅が広がった。また、指導と評価の一体化を図った学習指導として「美術ノート」(ポートフォリオ)を活用したことにより、生徒の主体性が高まるとともに、粘り強い表現の追究が生徒個々に見られた。
- 生徒一人一人がもつ課題を把握し、「学び合い」の必要性を吟味し、全体、グループなど「学び合い」の形態、タイミングなどもしっかりと見極め、生徒と生徒の考えをつなぎ、広げたり深めたりするために、より効果的な活動を研究していく必要がある。



環境教育研究指定校事業 (市教育委員会)

海外の環境に目を向けて

大仙市立大曲南中学校 校長 須田 百合子

大曲南地区では、ESDの理念に基づく環境教育に継続して取り組んできた。今年度は、更なる深化・充実を図るために、海外の環境に目を向ける取組を実践した。

本校では、3年生を中心に国際理解教育に力を入れている。今年度は、大仙市のCIRやALTに自国の環境保護対策についてプレゼンテーションをしてもらい、海外の環境保護にも目を向けさせた。また、国際教養大学の留学生と日本の伝統文化や環境問題について、英語でポスターセッションを行った。更に、ユネスコスクールのネットワークを活用して、ドイツのユネスコスクールとメールでの交流が実現し、「グローバル」な世界への第一歩となった。



藤木小では、児童会を中心に、海外の難民の子どもたちのために衣服のリサイクル活動に取り組み、これには、角間川小や本校も協力した。約2300着の衣服が集まったそうである。

これらの活動を通して子どもたちは、環境保護は地球規模で考えていかなければならないこと、日常の身近なことから実践を積み重ねていかなければならないこと等を感じた。子どもたちの視野は確実に広がり、環境保護に対する意識の深まりが感じられた。

教育課程研究指定校事業 (中学校理科) (国立教育政策研究所)

予想・仮説を課題解決の過程の中心に据えた授業の実践

大仙市立中仙中学校 教諭 物部長 秀

今年度本校は、2か年の標記指定を受け、「自然の事物・現象から問題を見だし、主体的に課題解決に取り組む指導方法の工夫～予想・仮説を大切に、学び合いを通して科学的な思考力、表現力を育む指導～」を研究主題として、研究を推進してきた。



予想・仮説を課題解決の過程の中心に据えた授業を実践し、予想・仮説を設定する場面と分析・解釈して考察する場面での学び合いの時間を保障するよう工夫した。

取組の成果として、予想・仮説をしっかりと立てたことにより、課題解決への意欲が高まったと感じる生徒数が増加したこと、予想・仮説と観察・実験の結果を比較して分析・解釈を行ったことにより、課題と正対させた考察ができる力の育成につながったことが挙げられる。

2年目は、従属変数と独立変数を意識した課題設定や予想・仮説を立てやすい学習シートの開発など、課題解決の過程にさらに工夫を加えていきたい。



小・中連携実践研究モデル事業 [県教育委員会]

小・中の円滑な接続を目指して

大仙市立豊成中学校 校長 今野 敏行

豊成中学校区（豊成中、豊岡小、豊川小）では、昨年度から「小・中学校の円滑な接続と中1ギャップの緩和及び小学校における専門性を生かした授業の推進」を研究テーマに掲げ研究を進めてきた。

主な実践としては、昨年度の反省を踏まえ、中から小への乗り入れ授業を更に4教科増やし（国語科・算数科・理科科・家庭科のTT授業、今年度8教科）、小から中への乗り入れ授業（数学のTT授業）、小・小間の交流で初の取組となる4年生算数の合同授業、小・中間の交流として「いきいき交流会」（年2回）と小・中合同挨拶運動等を継続して行ってきた。

2年間の成果としては、複数の教員のきめ細やかな指導や様々な活動により、児童生徒の自己肯定感が高まるとともに学習意欲が向上した。また、中学校教員の授業改善に対する意識が高まった。

今後の課題としては、乗り入れ授業の教育課程への反映と年間指導計画の作成、研究体制の維持と取組の精選がある。地域の特色を生かし、小・中が協力して研究に邁進したい。



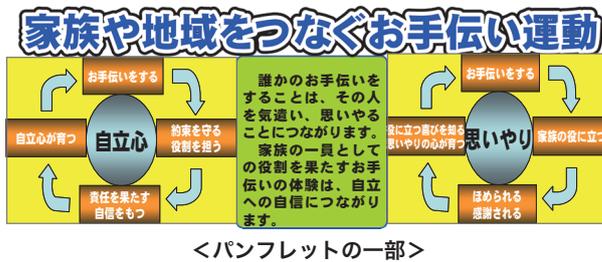
キャリア教育の推進（園・小・中学校）

家族や地域をつなぐお手伝い運動

仙北地区園・小・中学校連携協議会

仙北地区園・小・中学校連携協議会では、これまで、家庭・園・学校が連携して、「お手伝い運動」を推進してきた。今年度は、家庭からの協力をいただくために、保護者向けパンフレット「家族や地域をつなぐお手伝い運動」を作成した。

パンフレットには、子どもの発達の段階とお手伝いの関係や身に付けさせたい力などをワンポイントアドバイスとして記載し、特に、園や小学校の保護者が見通しをもってお手伝いを実践させることができるよう工夫した。保護者の方々からは、「地域全体で取り組むという意味が分かった。」「お手伝いしようという意識が芽生えるきっかけになった。」等の感想が寄せられた。来年度は、このパンフレットをカレンダー仕様にして日常的に使えるようにしたい。（パンフレットは高梨小、横堀小、仙北中のWebページに掲載）



キャリア教育の推進（小学校）

つながる！地域と未来の自分と

大仙市立角間川小学校 教諭 佐々木 和恵

11月、総合的な学習の時間「自分の未来を見つめよう」の一環として6年生9名が地域の四つの店舗等で職業体験をした。主な活動内容としては「調理」「保育」「商品の陳列」「接客」等である。

前日に子どもたちが直接出向いてあいさつをしたことで、当日は体験先の方とスムーズに活動に入ることができた。どの体験先も協力的で、子どもたちは実際に仕事をし、インタビューをさせていただいた。

子どもたちの振り返りには「働くことの大変さと楽しさの実感」「地域の方への尊敬」「仕事をする意義」についての記述が多く見られた。2時間程度の体験であったが、夢の実現に大切なことや今の自分ができることを考えるきっかけとすることができた。

本校の職業体験は地域の方とのつながりを深め、今の自分と未来の自分とのつながりを考える貴重な学びの機会となっている。



学校支援地域本部事業（小学校）

南外小学校はつらつ応援隊

大仙市立南外小学校 教頭 関口 洋彦

本校は、学校支援地域本部事業（通称：南外小学校はつらつ応援隊）を活用して様々な活動を展開している。昨年度の実績では、ミシン学習や読み聞かせ、茶道などの学習支援として168名、グラウンド整備や図書整理、玄関装飾などの環境整備として59名、運動会やスキー教室、さつまいも植えなどの学校行事として78名、計305名の方が子どもたちの教育活動の支援をしてくださった。今年度も昨年度に準じて事業が進行中であり、本当に感謝の気持ちでいっぱいである。

昨年度のはつらつ応援隊の年代別登録者数を見てみると、60代以上の方が66%と最も高くなっているが、20代～40代の若い方の登録者も28%で、この後も継続して活動できる感があり、うれしいことである。

学校は、地域の方々に守られ、地域の方々に支えられて成り立っていると言われるが、正にそのことを実感させられた一年間であった。今後も地域と一体となった学校でありたい。



ふるさと教育の推進 (小学校)

ふるさと豊岡キャンペーン

大仙市立豊岡小学校 校長 竹村 尚人

自分たちの住むふるさと豊岡のよさや素晴らしさを知るために、昨年度から本校では、地域のものや人々に触れ合うなど多くの体験や交流を行っている。それらを内外に発信することで、ふるさとを愛し、誇りに思う心を育てたいと考えている。

<主な活動>

- 1 ふるさと発信隊の結成
 - ・看板設置、みどころマップ作成・配布
 - 2 全校稲作活動の実施
 - ・田植え・稲刈りは地域の方々と一緒に活動
 - 3 収穫感謝祭の実施
 - ・地域の方々を招待してのおにぎりパーティ等
 - 4 公民館祭への全校参加
 - ・1、3、5年は発表、2、4、6年は交流
 - 5 ようこそ先輩～10年後の自分へ
 - ・本校出身の先輩(20代)とのシンポジウム
- これらの活動を通して深めた思いを大切な宝物として、子どもたち一人一人がいつまでも、どこに行っても自信あふれる「豊岡人」に育ってくれることを心から期待している。



コロンブスの卵わくわくサイエンス事業 (市教育委員会)

「科学」を体験しよう!

大仙市教育委員会教育指導課 指導主事 和田 英範

“理数教育の充実”を図るため、教職員対象の「観察・実験授業スキルアップ出前研修」と、中学生対象の「中学生首都圏大学・総合研究所派遣」の二つを柱とした本事業を今年度も継続して実施した。

<中学生首都圏大学・総合研究所派遣>について

【概要】

8月6日(木)から7日(金)に、中学生18名が参加して実施。一日目は理化学研究所、二日目は千葉大学医学部で研修を行った。

【参加生徒の感想から】

最先端の施設で日本の科学技術や研究レベルの高さを直接肌で感じ取ることができた生徒たち。「日本の中で、こんなに難しく大変だけど、やりがいのある実験や仕事をしている人がいることが分かった」「このような研究のおかげで僕たちの暮らしが豊かになっていることに気付くことができた」などの感想が寄せられ、科学の有用性を実感した生徒が多かった。



詳しくは大仙市教育委員会ホームページで



心のプロジェクト「夢の教室」(市教育委員会)

夢に向かう心を育てる

大仙市教育委員会教育指導課 指導主事 高橋 規子

スポーツ、図工、音楽の3分野で活躍しているプロの方を夢先生として迎え、その分野に関わる活動を共に楽しんでいる時の児童生徒の表情は皆豊かで、先生の体験談を聞く眼差しは真剣そのものである。自分がどんな小・中学生だったのか、どんな夢をもっていたのか、プロになるまでの数々の苦労話や挫折談なども織り交ぜて語ってくれるストーリーの主人公になったように、浸りきって聞いている。



「夢の教室」を通して、子どもたちの夢に向かう明るく強く前向きな心が育ち、さらに、夢先生のように故郷を愛し、社会貢献に意義を見いだせる人材に

育ってほしいと強く願っている。

今年度も素敵な夢先生たちがたくさん来てくださった。縁あって会えた夢先生との時間が、心の栄養剤になっていることを見届けると同時に、次にどのような出会いがあるのかとも楽しみにしている。

大仙市立中学校生徒海外派遣事業 (市教育委員会)

オーストラリアでの一歩を
未来への一歩に

大仙市立西仙北中学校 教諭 井合 潤子

1月3日から11日までのオーストラリア滞在期間中は天候に恵まれ、20人の中学生たちにとって忘れられない9日間になった。その中で特に印象深い研修は、4日間のファームステイである。生活習慣の違いに戸惑いながらも、自分の知っている英語表現を駆使してホストファミリーと心を通わせ、別れ際に涙する姿に、自分も思わずホロリとさせられた。研修の後半には現地に住む3名の日本人の方々からお話を伺った。それぞれの生き方や価値観にふれ、生徒たちは自分の将来への大きなヒントを得ることができた。また、最初はやや緊張気味だった生徒たちが、オーストラリアの豊かな自然や人々の温かさに包まれ、日を追うごとに自信をもった表情に変わっていく様子にも確かな成長を感じることができた。

今回の海外派遣で学んだことが彼らにとって未来の自分への大きな一歩となり、将来、地域の担い手として活躍するための一歩にもつながってほしいと願っている。



詳しくは大仙市教育委員会ホームページで



だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業（市教育委員会）

地域に 人に 優しい 避難所開設

大仙市立西仙北中学校 教諭 杉山 大樹

災害時に、中学生として何ができるのか。地域の一員として自ら考え、判断し、主体的に行動できる生徒を育成することをねらいとした。

1 訓練の概要

8月29日（土）、西仙北地域を震源とする直下型の強い地震が発生。西仙北中学校にも避難者が集まり、避難所の開設・運営に協力しつつ、西部わくわくランチとも連携・協力し、避難者に食事を提供する。

2 成果と課題

- 100人超の避難者に、自分たちができることを考え、臨機応変に対応した。
- 救急隊員や救急車を使った救命対応訓練も実施した。緊張感をもって訓練することができた。



- 避難者への配慮、緊急時の伝達方法の工夫が課題である。
 - 夜間、冬季間への対応も検討する必要がある。
- 指導講評では、生徒の優しさ溢れる運営だったと褒めていただいた。今後も活動を続け、災害時の自助・共助・公助の考え方をもとに、自分の命を守り、困っている方に手を差し伸べることのできる優しくたくましい生徒になってもらいたい。

詳しくは大仙市教育委員会ホームページで



「大仙っ子 読書の日」に係る取組事例

ミニ・ビブリオバトルの実践

大仙市立協和中学校 教諭 金子 茂子

発表者がお薦めの本をプレゼンテーションし、参加者とのディスカッションを経て一番読みたくなった本を投票で決定するビブリオバトル。読書週間の取組の一つとして文化委員と相談の上、紹介時間を3分間に短縮した形で国語の時間に実施した。

目の前の友達をいかに「読みたいたい」と思わせることができるか。2分程度の意見交換の中でいかに思いを分かち合えるか。チャンプ本決定というゴールに向け、参加者全員が自然な形で「読む・話す・聞く」ことに集中している。しかも楽しみながら。熱意ある文化委員のお陰で有意義な学習活動になった。



<紹介された本と感想の一部>

「民王」*チャンプ本

- ・あらすじを説明してくれたが、大事なところを伏せていた。気になるところでやめていたのでその後どうなったのか読みたくなった。



- 「くちびるに歌を」
- ・自分たちと重ね合わせられそう。
- 「星新一ショートショートセレクション」
- ・朝読書にもってこいだと思った。

詳しくは大仙市教育委員会ホームページで



だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業（市教育委員会）

被災地交流を子どもたちの力に

大仙市教育委員会教育指導課 指導主事 築地 高

1 取組の概要

東日本大震災から5年経過し、本市の防災教育の中核であった被災地支援は、被災地交流へと軸足を変えてきた。今年度は10校を超える小・中学校が人的、物的交流を行った。

2 成果と課題

被災地での研修や小・中学生及び仮設住宅などに住む方々との交流は、児童生徒の防災意識の高揚のみならず、ふるさと大仙市への思いを再認識することにつながり、大仙市が目指す「総合的な学力」を高める一助となっている。



<中仙中の被災地交流から>

交流の対象は被災地の小・中学校から仮設住宅等の地域の方々へ変わりつつある。今後は相手側のニーズに合った交流を心掛ける必要がある。さらに、被災地の「生き抜く力」から学んだ経験を、ふるさと大仙の更なる発展の原動力へとつなげるとともに、この活動をそれぞれの学校のキャリア教育や道徳、特別活動等の教育活動と系統的に関連付け、より有意義な活動に高めていかなければならない。

詳しくは大仙市教育委員会ホームページで



情報モラルいじめ対策事業（市教育委員会）

安全・安心のインターネット利用の充実を目指して

大仙市教育委員会教育指導課 指導主事 大阪 瑞穂

児童生徒が情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方を理解し、インターネット等によるトラブルやいじめ等を未然に防止する能力等を養うことや、保護者への情報モラル教育の啓発を図ることを目的に、昨年度から本事業がスタートした。

今年度は、複数の情報モラル講師から、各校が選択した講師を、全ての小・中学校に年1回派遣した。事前に学校と講師が連絡を取り、学校の実態に応じた講話内容にすることで充実が図られた。PTA研修として保護者用の講話を新たに設けて啓発を図ったり、生徒会活動における携帯端末利用のルールづくりの一環として講話を位置付けたりするなど、本事業の活用の仕方が広がっている。また、大仙市中学生サミットにおいてもSNS利用に係る取組がなされ、児童生徒の意識が向上してきている。

今後も学校、児童会・生徒会、保護者など多方面からの働きかけによって、児童生徒が安全・安心にインターネットを利用できるように、充実を図りたい。



食育の推進（弁当の日）

笑顔も会話もはずむ、「弁当の日」

大仙市教育委員会教育指導課 指導主事 櫻田 武

1 大仙市PTA連合会「講演会」

演題「「弁当の日」がやってきた」

講師は竹下和男氏。大仙市教育委員会との共催で8月1日中仙市民会館ドンパルで開催。教職員、保護者、栄養教諭等、約300人が参加した。

2 小・中学校における「弁当の日」

平成27年度「弁当の日」実施校は、花館小、神岡小、太田南小、西仙北中、中仙中、豊成中、仙北中の7校。

【花館小学校での取組例】

年間3回「弁当の日」を実施。当日は、子どもたちが作った弁当を話題にしながら、教師も自分で作った弁当を持参し、一緒に食べている。弁当作りには、買い物、準備、調理、後片付け等、家族とのコミュニケーションが必要となる。家族が食べて大喜びする姿は、子どもたちの自己有用感にもつながる。

保護者からは、「子どもがとても生き生きしていた。」「子どもでもこんなにやれる。」「子どもの弁当を食べて泣いた。」等、全て賛同の感想が寄せられた。



<自分で作ったよ！：花館小>

大仙市中学生サミット（市教育委員会）

「だいせん思いやりSNSルール」決定！

大仙市教育委員会教育指導課 指導主事 築地 高

【中学生サミット全体会 H27. 8. 29 大曲中にて】

第1部（市内4校生徒会の取組発表）のあと、第2部では昨年度サミットでのいじめ撲滅部会の流れを受け、SNSルール策定に向けた話し合いを行った。ワールドカフェ方式によるグループ討議



と全体での意見交換を経て、家庭で話し合うことの大切さとともに相手への思いやりを重視するという願いを込め、「だいせん思いやりSNSルール」を決定した。

・家族で話し合って使い方を決めよう

・内容を確認してから送信しよう

各校版のルール策定や見直しの際の参考にするなど、各校の実情に合った活用を期待している。

【その他の主な取組】

- ・H27. 6. 3 事務局校会議（太田中にて）
- ・H27. 8. 29 避難所開設訓練参加（西仙北中にて）
- ・H27. 12月 中学生サミットポスター作成と配布
- ・H27～ REVO通信No.1～No.3の発行
- ・H28. 2月 REVO11（各校版REVO）発行

食育の推進（手洗い教室）（市教育委員会）

ばいきんバイバイ、手洗いって大事！

大仙市教育委員会教育指導課 指導主事 櫻田 武

1 「手洗い教室」について

大仙保健所、大曲食品衛生協会の協力の下、平成27年度における全ての小学校2年児童を対象に2年間で実施。

2 四ツ屋小学校「手洗い教室」の実際

2年生30名を対象に、11月24日（火）に開催。授業を進めてくださったのは、仙北地域振興局の須田陽子技師。「手洗い実験」の活動では、バイキン計測器（ルミテスター）を使って、手洗い前と手洗い後の手のバイキン数をチェック。合格のバイキンの数は1500個。子どもによっては、9000個以上のバイキンを手洗いで退治することができた。

【児童の感想】

「手を洗うと、きれいになることが数で分かってびっくり。」「手洗い名人だから、これからも続けていきたい。」「手洗いマイスター認定書をいただいとうれしかった。」



<きれいになりましたか？：四ツ屋小>

市PTA連合会

文部科学大臣表彰を受賞して

大仙市立高梨小学校 教頭 厨川 学

昨年の11月15日に東京のホテルニューオークラで全国PTA表彰式が行われ、本校は栄えある文部科学大臣表彰をいただくことができた。

そこで本校の特色あるPTA活動を紹介したい。

1 学校文集「オリザのまち」の発行

PTA総務部が主体となり、年1回、全児童・全保護者・全職員が寄稿する学校文集の発行を続けている。

今年度で37号の刊行となる。



2 地域を巻き込んだリサイクル活動

PTA執行部が中心となり、アルミ缶回収を年3回、空きビン回収を年1回実施し、リサイクル活動に力を入れている。この活動は地域の方にも広報を通じてお知らせしており、多くの住民から協力をいただいている。

3 PTA講演会の開催

PTA主催による講演会を年1回開催している。この活動は児童・保護者に加え地域の方々からも多数参加していただき、普段なかなか味わうことができない文化的な講演を楽しんでもらうことを目的としている。



第18回大仙市教職員研究集会 職務別等研修 (市教育委員会)

実践的指導力を高める研修について

大仙市教育委員会 教育研究所長 佐藤 英樹

確かな学力向上を支える生徒指導の充実、「特別の教科 道徳」についての理解推進、一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実等、喫緊の教育課題や時代の要請に応じた不断の研修が求められるところである。

本市では、各分野における実践的指導力を高めることを目的とし、教職員研究集会当日の午前中に、次の三つの研修会を実施した。

【生徒指導主事研修会】(担当：大阪瑞穂指導主事)

不登校に係る研修を行った。はじめに秋田県教育庁南教育事務所大石照彦指導主事から「不登校の『未然防止』と『初期対応』について」というテーマで講話をいただき、未然防止と初期対応の違いや組織的な対応方法等について学んだ。

次に不登校防止の取組について加賀谷秀樹教諭(豊川小)、古谷雄悦教諭(協和中)から発表があり、後半は中学校区ごとのグループに分かれ「小・中連携を生かした不登校予防の取組」について協議した。校種を超えて、活発な話し合いがなされた。



【道徳研修会】(担当：高橋規子指導主事)

平成30年度・31年度から全面实施される「特別の教科 道徳」について、各校からのニーズに応えた、タイムリーな研修会であった。

■研修概要

- ・「特別の教科 道徳」についての伝達講習
(講師 秋田県教育庁 南教育事務所 仙北出張所 熊谷留美子 指導主事)
- ・グループ演習
(中学校区ごとの 情報交換)

■成果

- ・全面实施までの取組が明確になった。
- ・「特別の教科 道徳」に係る小・中連携の理解が促進された。



【特別支援教育支援充実研修会】(担当：櫻田武指導主事)

今回の研修テーマは「カウンセリングの手法を生かした支援」「発達障がいの特徴と対応の基礎」。学校生活支援員と各校の代表者、91名が参加した。「特別支援教育」はその名称が変わってから、来年度で10年目。これまで特別支援教育の研修を受講した先生方は、小学校で84%、中学校で68%となっている。本市教育施策の一つでもある「特別支援教育の充実」に向け、先生方には、ぜひ進んで参加していただきたい。



第18回大仙市教職員研究集会 全体会 (市教育委員会)

大仙市教育10年間の総括と今後の展望

大仙市教育委員会 教育研究所長 佐藤 英樹

今年度の教職員研究集会は、大仙市が誕生して10年という節目を迎える年であることに加え、7月から新たな教育委員会体制となったことを踏まえ、「大仙市教育10年間の総括と今後の展望」のテーマの下、開催した。

特に、「吉川教育長講話」、「三浦前教育長からのメッセージ」、「今後の展望(対談)」については、今後の大仙市教育の方向性を示す重要な内容であることから、研究所報「けやき号外」としてまとめ、学校経営や「大仙教育メソッド」における各中学校区の特徴ある取組の参考資料として各校に配布し、本市ホームページでも紹介した。

また、当日は、全国消防職員意見発表会で見事最優秀賞を受賞した新田理沙消防士(角館消防署)の「私があなたの後押しをします」と題した発表もあった。スマートフォンの音声検索で心肺蘇生の動画が再生できるような仕組みを整えることで、「一人でもやってみよう。」という勇気の後押しをしようとする内容であった。はきはきとした受け答えや堂々とした発表態度に、大きな拍手が寄せられた。



平成27年度 教育研究所のあゆみ

1 大仙市教職員研究集会

- ①第1回大仙市教職員研究集会(H27. 4. 22)
 - 三浦教育長講話 □特色ある取組発表
- ②第2回大仙市教職員研究集会(H27. 8. 4)
 - 職務別等研修会(午前)
 - 生徒指導主事研修会
 - 道徳研修会
 - 特別支援教育支援充実研修会
 - 全体会(午後)
 - 新教育委員会委員等紹介、吉川教育長講話
 - 大仙市教育10年間の総括
 - ・三浦前教育長からのメッセージ他
 - 今後の展望(三浦前教育長と吉川教育長との対談)

2 学校訪問

- ①教育委員等訪問…市教育委員会や各学校の教育方針等の共通理解
- ②教育長等訪問…学力向上、「総合的な学力」の育成、生徒指導上の課題への対応等について状況を把握し、改善の手立てなどを確認

3 学力向上対策(学力向上推進委員会の活動内容)

- ①全国学力・学習状況調査及び秋田県学習状況調査の分析結果を提供
- ②課題を踏まえたフォローアップシートの作成

発行 大仙市教育研究所

〒014-8601 秋田県大仙市大曲上栄町2-16
TEL: 0187-63-9400 FAX: 0187-63-9401
E-mail: om-kyouken@edu.city.daisen.akita.jp